

JM-2 人工呼吸中のヒヤリハットと対策

岡山大学医学部付属病院集中治療部

丸山雅道 兼藤いづみ 真鍋佳子

人工呼吸中に起こる事故は、患者の生命に直結する。そのため、事故を予防することが必要である。

ヒヤリハットには、事故を未然に防ぐ方法やこれから起ころうとする事故が潜んでいるため、近年注目されている。

当集中治療部においても、事故防止策として、看護手順や情報共有ノート使用による看護の標準化を図っている。また、事故報告の基準を明らかにする事は、リスクを知り、対策を立てる上で有効であった。

ヒヤリハット対策として、患者の個人差を考慮した対策が重要であり、看護記録や、個々のベットに取り付けている注意事項を記載したメモが有効である。

今回、人工呼吸中のリスクと当部における事故対策について述べる。

当部で起こった約 3 割が器械操作関連の事故で集中治療部の特殊性と考えられる。

看護のかかわる人工呼吸中のリスクとしては、精神状態、コミュニケーション、気管内挿管、肺理学療法、人工呼吸器、加湿器などがあげられる。

2000 年度の事故報告より、加湿器、自己抜管、呼吸器の誤動作などの報告

があり対策を苦慮中である。

事故報告は、患者影響レベルにより、報告の基準が違い、より事故に対する意識が高まった。

では、患者影響別に事故を分析すると、レベル 0 と 1 がハイムリッヒの法則より、少ないことに気がつく。

そこで、人工呼吸中のヒヤリハットの経験についてアンケートを実施したが、おおむね事故報告の内容と一致した。

ヒヤリハットを有効に活用するには、トップダウンでなく、現場の意見を反映しやすいボトムアップが重要であり、ボトムアップすることで、事故防止対策に対しても意識が向上すると考える。

今後の課題としては、

- ① 手順の充実と遵守
- ② 臨床工学技士との協力体制の確立
- ③ 呼吸療法のレベルアップ
- ④ 事故報告から原因の分析と対策
- ⑤ 個人レベルでの危機意識の向上